

イ 家庭教育指導者研修会

事業名	事業主体	昭和40～45年度		昭和46～50年度	
		事業内容・事業量	事業費	事業内容・事業量	事業費
家庭教育指導者研修会	県	家庭教育に関する諸問題について研究協議しその振興をはかる 4か所 1か所 100名 単年度経費 400千円	千円 2,400	家庭教育に関する諸問題について研究協議しその振興をはかる 6か所 1か所 100名 単年度経費 600千円	千円 3,000

(5) 婦人学級、婦人講座

〔施策設定の理由〕

社会の進展に伴って、生活全般にわたる婦人の自主的な学習活動の必要に応じ、婦人学級が従来果たしてきた役割は大きい。

昭和39年度における婦人の学習状況は、第11表に示すとおりであるが、本県全体からみれば必ずしも満足すべき状況ではない。婦人に対する学習の機会としての婦人学級は、いっその振興充実をはからなければならない。

第11表 婦人の学習状況

(昭39 社会教育課調)

開設者	婦人学級		講座		その他	
	数	人数	数	人数	数	人数
文部省委嘱	98	3,088	-	-	-	-
県市町村	8	739	-	-	-	-
公	88	8,640	57	5,704	2	250
婦人団体	208	17,020	466	25,364	60	4,543
市教委・婦人団体共催	15	1,569	95	9,140	168	2,217
市有	100	12,228	43	6,749	45	2,396
婦人有志の	93	894	36	1,582	167	5,553
その他	-	-	62	3,859	9	567
計	490	44,172	759	53,398	451	22,526

〔施策の目標〕

- ア 婦人学級は、中間年次において750学級、目標年次で1,000学級に増設する。
- イ 学習内容については、学習目標にてらし、コース制、年齢別制等その編成に留意し、市民生活、子どもの教育、家庭の生活設計、生産・職業等を中心として学習内容を編成し、その充実をはかる。
- ウ 婦人講座は、中間年次において950講座、目標年次には1,200講座に増設し、その学習内容も講座の目標、地域の実情に応じて充実する。

〔事業計画〕